（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	第0194100418号		
法人名	株式会社　あしのメディカル		
事業所名	グループホーム和喜あいあい(ユニットA)		
所在地	北海道釧路市星が浦大通3丁目9番29号		
自己評価作成日	令和　3年　10月　30日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 3 月 30 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100418-00&ServiceCd=320&Type=search

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの思いを大切にしています。ご本人の希望を御家族と協力し出来る限り叶えられる様、支援しています。訪問看護ステーション、協力医療機関が隣にある為、体調がご心配な時にも直ぐに相談できます。

平屋建ての為、気軽に外出できる利点が有り、温かい季節は外で過ごす時間を沢山持っています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5　芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和3年11月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は新興住宅街にあり、同じ敷地内には協力医療病院・訪問看護ステーション・老健、保育園などがあり、近くにはスーパーもあり立地条件に恵まれている。事業所は玄関を境にユニットが左右に分かれており、共用空間は広く明るくゆったりとしている。浴室も職員が介助し易い浴槽が設置されている。職員も利用者も明るく、生活が穏やかな生活空間を醸し出しており、事業所の名前の「和やかに喜び」を感じられるよう日々過ごせるような支援を行なっている。近隣の保育園児が来訪したり町内行事のお祭りや敬老会等に参加し交流していたが、コロナ禍で全ての交流が中断している。職員、利用者や家族は感染症のコロナが早く終息する事を願っている。管理者と職員はコミニュケーションもよく会議での意見や提言・相談しやすい環境にあり、管理者は職員の話をよく聞き、運営に反映させている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲げており、職員間で共有し実践できる様、努力を重ねているが、これまで行って来た事もコロナの影響で出来なくなってしまった事が多く、今後の新しい形を模索している最中。	理念を事務所等に掲示している。理念について会議や職員間で話し合うほか、利用者の支援時に、理念を意識した取組を心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、それまで大切にしてきた地域との繋がりも出来ない状態。町内ごみ拾いや町内資源回収など密にならない行事のみ参加させて頂いている。	町内会に加入し、町内会の行事に利用者と参加して交流を深めたり、保育所園児や小学校児童との交流もあったが、コロナ禍により自粛している。	コロナ禍ではあるが、平常時に戻るためにも園児や学童への利用者からの絵手紙などで交流したり、町内会会長や役員、民生委員とのコンタクトを密に行っていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で、地域の方々との交流が持てない状況。運営推進会議議事録を町内会の方に送付し事業所の取り組みを知ってもらう工夫は行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で、書面会議とさせて頂いている為、以前の様な活発な意見交換は難しい状況となっている。	コロナ禍のため、運営推進会議は書面での開催となっている。民生委員・町内会役員・包括センター等の各委員には事業所の運営状況や行事などの報告書面を送付し情報を提供している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事、不安な事は都度相談させて頂き丁寧に対応して頂いている。情報も都度メールなどで発信してくれている為、安心してサービス提供が行えている。	市担当者とは運営状況や介護保険の更新、生活保護手続き、医療機関利用などについて相談し助言を得ている。特にコロナワクチン接種や感染症予防対策等の相談や助言が多くなっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており適切なケアが提供されているか委員会職員で検討、評価を行い結果を全職員に周知させている。また委員会会議内容は運営推進会議内でも取り上げ、アドバイスを頂いている。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催している。全職員が所内研修で学んだことや感じたことを復命し、身体拘束の対象となる具体的行為を理解し、共通理解を図りながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待については勉強会のテーマとして数カ月に1回は学びの機会を作る様にしているが、今年度もコロナ禍の為、外部研修の参加は無し。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は作ってはいない。 管理者、ケアマネが対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネが行っている。 契約時は、後のトラブル回避の為にもご家族に十分な理解、納得を求めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	基本的には、面会時などに御家族からのご要望、ご意見を全職員が対応できる体制にしている。その他には、ホーム窓口にご意見箱を設置し対応している。	利用者との日々のふれあいの中から丁寧に意見・要望を聞くよう心掛けている。家族からは訪問時や電話連絡時等を活用し意向や要望を聴取している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度代表者との会議を設けており、ホームの状況を報告、相談している。管理者、ケアマネが参加し職員からの意見、提案を報告、都度対応して頂いている。	管理者は日常的に職員の意見や要望を聞く機会を設け、個別面接の際にも職員の意見や希望を把握し、事業所や法人で検討しながら、採り入れている。また、職員の希望に沿って働けるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、良好な職場環境の整備に力を入れてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的には、管理者ケアマネに一任されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で交流の機会は減少傾向も他事業所の情報などを教えてくれる。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前から事前の情報収集を行い、ご本人が納得し安心したサービスを受けられるように最大限の努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは常に良好な関係を築いていける様に努力している。いつでも話しやすい、相談しやすい関係を目標としているがコロナ禍の為、面会の機会が現象、電話や手紙での交流がほとんどとなってしまう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階から協力できることが有れば相談に乗り対応させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を一緒に行うことを大切にしている、家事活動をメインとした生活リハビリを主体に活発な生活を送れるように支援しているが、ここでもコロナの影響でできる事が限られてしまってきている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を得られるときは共に支援し難しい場合は事後報告を行いできる限り一緒に本人を支えていける様に心がけているが、コロナの影響で面会が制限される現在、難しい案件となっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、外出自粛となり支援が難しい状況。	現在はコロナ禍で面会や外出支援を自粛しているため、利用者の希望に合わせて電話で馴染みの関係が継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格、相性を考慮し座席位置を変更したり、良い距離でよい関係を結んでいけるよう工夫させていただいている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了されたご家族が顔を出してくれることも多く、そういった事を踏まえると努力した結果と思われる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いをできる限り尊重していく考え方で支援させていただいている。	日常生活の関わりの中で、利用者の思いや意向などを把握するよう努めている。困難な場合は、家族からの情報やケア場面での気づきを大切にし、会議等の中で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限りの情報を集め支援に活かしている。グループホーム利用後も情報収集は欠かさず行い新しい気付きとして支援に活かせる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を見極め認知症振興の緩和、諸症状の緩和を目的としたケアを行っている。ただ現在は室内で過ごすことが多くなり身体機能などの低下が問題としてある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、利用者担当職員を中心に意見交換し活きた介護計画になるように努力している。	利用者の意向や身体状況・家族の要望をもとに、職員の意見を取り入れ介護計画を作成し、支援を行っている。介護計画の見直しは6ヶ月毎に行っており、身体状況の変化やモニタリング結果をもとに、見直しを行い新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌、個人経過記録、個人情報ファイル、情報共有ノートを使用し職員の気付きや工夫を活かし良いケアに繋がるように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まりごとは設定せず、常に利用者主体を心がけているので臨機応変に対応できる体制が整っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、それまで積極的に参加させて頂いていた地域との関りも減少傾向。外出が出来ない事で不自由さを与えてしまっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム利用前からのかかりつけ医がある場合は、そのまま継続して受診していけるように支援させて頂いている。	入居時に、利用者や家族からこれまでの受療状況を把握しており、利用者がこれまでにかかっていた医療機関や希望する医療機関を受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	コロナ禍の為、訪問看護さんの週1回の往診は中止としたが、隔週で行ったり電話やFAX、必要に応じWEBで利用者さんの状態を相談できる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室、相談室とは定期的に連絡を取り情報の共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとして出来る事、出来ない事の説明はしっかり行いつつ、隣接している医療機関の協力を得ながらグループホームを利用することも可能な事など安心できるように説明、支援させて頂いている。	重度化した場合の対応については入居時に同意を得ている。利用者・家族の意向に添った支援が提供できるよう家族との連絡を密にしている。急変時には、隣接している医療機関の協力を得ながら最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員とは言えない。敷地内には協力医療機関、訪問看護ステーションがある為、急変時には24時間相談、対応して頂ける体制がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法、地域との協力体制はしっかりと出来ている。ただ全職員が有事の際、的確に動けるかというと不安が残る為、訓練が必要。	昼夜を想定した火災避難訓練を年2回実施している。また、地域や近隣施設の老健・病院・訪問看護ステーションとの協力体制が整っている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本を守りつつも、その方との関係性などを考慮している為、言葉使いが外部者が聞くと問題と感じる可能性もある。出来る限り利用者さんの笑顔が引き出せる関係を作っている。	利用者に対して制止するような言葉かけを行わないよう気をつけているほか、呼び方にも配慮している。使用目的を記載した、個人情 報に関する同意書があり、個別ファイルは事務室の棚に、適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームの中では、常に選択肢を持てるように支援し、自己決定を大切にさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は行動のきっかけ作りを大切にしており、それを利用者さんに決めていただいている。ただこれまで大切にしてきた外出の機会の提供がコロナ禍の為、選択させてあげられなくなり窮屈な思いをさせてしまっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常その方々が行っていた事を自然にホームでも行えるように支援させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように本人の嗜好を大切にしている。利用者と一緒に調理から片付けまで行うことを約束としている。	利用者と日常の会話の中から好みに応じた献立や季節メニューを取り入れている。職員も一緒にに同じものを食べ食に関する話題の共有化も図っている。利用者の役割として、準備や片付け等か職員と一緒に行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を確認できるチェック表を用意し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力医療機関の歯科往診、口腔ケア実施、口腔ケア指導もある為、清潔を保つために必要な知識など職員の理解度が増している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	グループホーム利用後は全ての利用者がトイレ使用に変更しオムツ使用者は不在。排泄の失敗を減らせるように個人のパターンを理解し定期的な誘導などで支援させて頂いている。	トイレでの排泄を心掛け、排泄チェック表から個々の排泄パターンや声掛けのタイミングなどを把握し、トイレ誘導をしている。誘導時はできるだけ自力で歩き、自分でできることは自分でしてもらうようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物、飲み物、運動の大切さを全職員が理解し支援に活かしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のきっかけは、職員が作り出すことが多いが曜日に関係なく毎日その時の状況により入浴できる体制を作っている。	週2回の入浴で、利用者の体調や希望にあわせて入浴できるように取組んでいる。入りたくない人は時間をずらしたり、曜日を変更するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ね全ての利用者が安眠できている事から、そういった支援ができていると思われる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は個人ファイルで管理し内容を確認、理解できるように務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しめること、充実した時間を過ごせる事の為に多くの選択肢を職員が作り出し利用者の皆様がその時の気分で参加できる支援を心がけている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出ができない状況。	ドライブで紅葉見学などに出かけたり、町内会のお祭り等に参加するなど、外出支援を行っていたが、コロナ禍のため日常的な外出支援は自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理の方もいる。金銭管理に不安を持ってしまう方はホームで管理させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望によりいつでも可能、携帯電話を所持している利用者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの室内装飾を行うなど、利用者の皆さんが見て感じられる工夫も行っている。建物の建設上で利用者が不安、戸惑いを感じることは現在まで無し。	共用空間は、温度と湿度管理、定期的な換気、床やテーブルなどの消毒を行って、感染症予防に努めている。各季節に合わせた手工芸品や行事の写真などを飾り付け、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多くの椅子、ソファーを用意しており、その時の気分で一人になれたり、気の合う方と一緒に時間を過ごせるように支援させて頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の事情により新しいものを利用する方が多いが利用者の皆さんは自分の部屋と認識されている方が、ほとんどの為、安心して過ごされていると思われる。	いつもの使い慣れたタンスや椅子等を持ち込み、自宅で飾っていた写真などを居室に飾り、居心地の良い居室を工夫してる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置なども単独で歩く時の支えになるように工夫したりできる事をより安全に行えるように工夫を持っている。		